

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援センタージャンプ			
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～	令和8年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～	令和8年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児発と放デイとの繋がりがある。	イベント時や長期休み中等に放デイの子どもたちとの交流をしている。 お互いの事業所職員が見学しあったり、情報共有、実際に現場に入る機会もある。	交流を継続して行っていく。 事業所見学をした後は、それぞれに対してフィードバックを行い、その後の活動や支援にいかす。
2	安心して通える場となっている。	ご家族とのやりとりを大切にし、必要に応じて面談の場を設ける等親御さんの困り感に寄り添い、助言をしている。送迎時の申し送り、連絡帳でのやり取りを丁寧に行うよう意識している。	何かあればいつでも話しをする機会が持てることを親御さんに伝え、面談、助言の機会を設ける。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の幼稚園、保育園等との交流や地域での子どもと交流する機会がない。	地域の方や外部の機関の方と関わる機会がない。	近隣のコミュニティセンターの遊び場を利用することで地域の子どもたちと交流する機会を作る。 地域交流の場としてイベントの企画(トーマス号を呼ぶ等) →イベントのお知らせに地域の子どもたちとの交流を図りたい等記載する。 公園での交流は行っているため、おたよりにその旨を記載する等し発信していく。
2	日々の活動の様子を保護者に伝える方法が少ない。 (現在月1回発行のおたよりのみ)	ホームページやSNSでの発信は行えていない。(プライバシーの点を考慮する必要がある)	HUGを利用し、行事の時の様子を発信していく。 ホームページに保護者だけが閲覧できるページを設けて活動の様子等を発信する。
3	きょうだい支援の機会が少ない。	今年度はきょうだいを含めて参加できるイベントとして夏祭りを開催したが、その1回のみ。	きょうだいを含めて参加できるイベントの企画、夏祭りの他にも何ができるかを検討。